

谷垣会長、政権奪還に強い決意 全国を回り、自民再生の道をさぐる

険しいが、可能な政権奪還

臨時国会召集日である10月26日、自民党の両院議員懇談会が開催された。冒頭挨拶に立った谷垣総裁は今回の総選挙で自民党は国民から大変厳しい批判を受けたが、その敗れた理由は①政策面において国民に夢と希望を与えることができなかった②組織のあり方に問題があったのではないかと③党に若い力を結集出来なかった④候補者選定に問題はなかったか、などが考えられると述べた。しかし神奈川、静岡両県の参院補欠選挙の結果を見ると、負けたとは言え、両候補ともよく戦い再生への一歩を踏み出したのではないかと自信を見せた。さらに選挙後の民主党の動きを見てみると、極めて社会主義的な政策になっているのではないかと心配している。私は党再生のために、全国行脚し、身を粉にして頑張る覚悟である。

両院議員懇談会



両院議員懇談会で挨拶する谷垣総裁

党再生、政権奪還に向けて、「さあ、みんなで頑張ろう」と参加者に訴えた。政権奪還への道のりは大変険しい。それでも民主党に對抗する政党・自民党の再生は日本の健全な民主主義の発展に絶対に必要である。

参院候補者の選考の基本方針が決定

わが党の再生と政権奪還を目指し、党の基本理念をはじめ、党再生に必要な基本問題を総裁に勧告する自民党「政権構想会議」では次期参議院選挙の候補者選定の基本方針をまとめ、党総務会で了承された。党執行部は11月11日、早急に候補者選定の手続きを取るよう、各都道府県連に対して通知した。その中で、①参議院候補者を年内に決定すること、②すでに党本部に申請を行っている都府県連の公認候補者については、可能な限り黨員による信任の手続きを経ることが望ましいが、当該都府県連の候補者決定機関(選定機関)に衆議院選挙区支部長等を加えること)における追認をもってこれに代えることができるとしている。京都府連では現職の二ノ湯議員を、伊吹文明1区支部長、谷垣禎一5区支部長も出席した選挙対策委員会で次期参議院選挙の公認候補として決定・本部へ申請している。

天皇陛下ご在位

二十周年を

心より、お慶び

申し上げます

天皇、皇后両陛下の

ご健康と皇室の弥栄を

お祈りいたします

平成二十一年十一月十二日

参議院議員 二ノ湯 智

補給艦「ましゅう」最後の航海 二ノ湯議員、舞鶴港で見送り

平成13年、ニューヨークで起きた同時多発テロを受け、インド洋でテロ対策活動を実施している各国艦艇に対して、海上自衛隊は、平成13年11月から現在まで給油活動を行っており、各国から大変感謝されている。しかし、補給支援特別措置法は来年1月15日に期限を迎える。鳩山内閣は「単純延長はしない」方針なので、補給活動は中止されることになる。11月9日、女性官19名を含む150人の自衛官が乗り込んだ補給艦「ましゅう」が、舞鶴港からインド洋に向けて最後の任務に旅立った。現地到着

には約2週間ほど要する。それに先立ち、当日朝10時30分より、舞鶴海上自衛隊北吸岸壁で出港行事が行われた。行事には来賓、家族、自衛隊関係者、多くの市民が参加、任地に赴く自衛官を激励、任務中の無事を祈った。なお、出港行事には二ノ湯参議員が自民党を代表して参加した。



二ノ湯参議員、府連会長代行に

10月15日、谷垣自民党総裁は府会、京都市会議員との昼食懇談会の席上、「総裁に就任し、府連会長としての職務が十分に全うできないことを考慮し、会長代行を筆頭副会長の二ノ湯参議員に、併せて西田参議員に副会長をお願いしたい。然るべき折に正式に府連の幹部会でお諮りさせていただきたい」との発言があった。それを受けて京都府連は、10月28日に「幹部会・常任総務会合同会議」を開催、谷垣会長の提案を諮ったところ、参加者の全員一致で、二ノ湯会長代行、西田副会長の人事案件が了承された。谷垣総裁は、全国47都道府県を行脚し、

党員や市民と対話し、党再生、政権奪還の道筋を見つけた、そのために身を粉にして頑張る決意を表明されています。党を取り巻く情勢が誠に厳しいこの時期に会長代行という重職を与えられましたが、私は京都府の市町村を隅々まで回って、経済不況と格差で苦しんでいる各地域の方々の意見に謙虚に耳を傾け、自民党が再び多くの国民に信頼される党として、蘇ることが出来るように、谷垣総裁の地元京都から頑張ってくださいたいと決意を固めております。それと同時に、府連内に有識者を含む各選挙区の代表者等で構成する「党再生委員会」を設置し、京都府連の再生に向けて、提言をいただきたいと考えております。

府連再生の改革、改善を検討

自民党府連「党再生委員会」を設置

自民党京都府連では総選挙後、党再生のための改革、改善策の提言を各方面に要請していたが、多くの建設的な意見が寄せられてきた。提言をさらに詳細に検討し、併せて幅広く再生の手がかりを求めするために、府連内に「党再生委員会」を設置することになった。1区から6区まで公平に委員を選、精力的に会合を重ね、年内にも提言をまとめ、今後の京都府連の活動方針に生かす意向である。

府連に寄せられた色々な意見

- 1、衆議院小選挙区候補者の選考
 - 厳格な公募制の適用
 - 候補者には定年制を導入すること
 - 安易な党員選挙や公募又は既存の枠内での縁故による人選はすべきではない。
 - 地元で根ざした「ドブ板」の出来る候補者を選定しなければならない
 - 優秀な人材(弁護士・学者・医者)を捜し、積極的なアプローチが必要
- 2、地域支部体制の強化
 - 各議員にノルマをあたえ、党員獲得の増強に取り組む
 - 党員獲得に国会議員が模範を示すべき
 - 指導力を発揮できる支部長、選挙戦術
- 3、地方議員の組織強化・運用
 - 府会、京都市会議員以外の地方議員の意見や党員の考えが府連に反映する仕組みを作してほしい
 - 研修会等の開催や地方議員の意見等を府連としてもっと聞く機会を増やす
- 4、各級議員による街頭活動と支部組織の協力のあり方
 - 支部組織において、各級議員が支部長のもと、目標を設定し、定期的かつ継続的に街頭活動を実施することが必要
- 5、首長及び地方議員の公認・推薦手続きのあり方
 - 積極的に擁立に参画し、選挙運動も資金調達も含め、党の影響力の維持に努めるべき
 - 従来通り当該地域支部の決定を重く見るべきだが、出来る限り多くの一般党員の意見も聞き、関与できるようにすべき
- 6、府連女性局(支部女性局を含む)の強化・運用
 - 女性局の強化、若返りが必要。選挙を戦う上で最大の票田は若い世代の子育て女性である
 - 府連・支部とも女性役員を積極的に登用
 - 幅広い年齢層の女性が気軽に参加できる体制・雰囲気作り
- 7、府連事務局運営のあり方
 - 全地域支部での女性部設置
 - 3年単位で職員の業務を回転させ府連と選挙区とのつながりを緊密にする。

思い出の

前尾繁三郎先生②
政治と学問の両道
人格・識見、群を抜く

思うようにならぬ京都府知事

中央で順調に政治家として大成された先生にとつて、地元京都の政治情勢は、全く意に沿わないものであった。昭和25年、京大教授から中小企業庁長官を務めた蛭川知事が誕生した。当時、知事は前尾先生に頼っており、比較的良好的な関係であったようだ。3選目を果たした頃から、蛭川知事を支える京教組、府職労、京都府医師会が共



衆議院議長就任の挨拶をする前尾繁三郎先生(昭和48年5月29日)

産党の勢力に侵食され、それに釣られて、蛭川知事もだんだんと共産党寄りの姿勢に変わっていった。

前尾先生にすれば、地元の京都府の知事が共産党系では、中央における自分の政治力を十分に發揮できないというもどかしさがあった。京都市内はともかく、遅れている京都の北部地方の発展のためには、蛭川知事ではいけないという考え方が次第に強くなってきていた。その上、宏池会会長として総裁を狙うには、自分の地元の知事が共産党ではという批判があり、それを強く気にされていたのも事実である。

昭和45年4月に行われた京都府知事選挙は、日本の選挙史上、最大の物量選挙と言われた。前尾先生は今度こそ蛭川知事を倒すという意気込みで、候補者に自治省事務次官であった柴田護氏を引っ張り出した。私はこの選挙では長期休暇をとり、運転手兼秘書として前尾先生付きとなった。先生は知事選挙の期間中、ずっと地元の京都に張りついて選挙の陣頭指揮をされていた。

柴田、蛭川の戦いでは、蛭川陣営だけでも撤いたビラの種類は、30種類以上に及び、どここの家庭にも毎日、2、3種類のビラが配られるというすさまじい戦いであった。私は、夜の演説会が終わって、先生を嵯峨の自宅まで送った後、選

挙事務所に戻り、ビラの束を抱えて各戸配布に出掛けた。正直言ってこの選挙ほど、しんどい選挙は未だかつて経験したことがない。それほど共産党の勢いは強かった。それでも柴田陣営は、「今度こそ蛭川を倒すことが出来た」と感じるほどに、充実感で溢れていた。前尾先生自身も選挙期間中の手応えで、勝利を確信していた様子であった。投票日当日、前尾先生は選挙事務所近くのホテルフジタで、長い戦いの疲れを癒していた。

夕方近くになって、前尾先生の下に先生が最も信頼していた丹羽喬四郎氏(元運輸大臣)が来訪、続いて府連会長をしていた谷垣専一氏(元文部大臣)、(現自民党総裁・谷垣禎一氏の父)がやって来た。3人は選挙情勢を分析していたが、全員柴田当選間違いなしの口ぶりであった。谷垣氏が「柴田が当選したら、京都府庁への登庁をどんな段取りでしたらいいでしょうか」と喜びの余り、前尾先生に訊いた。すると、先生は「谷垣君、自分で考えなければ」と言いながら、その場合の逸る気持ちを抑えておられた。

それから数時間、即日開票が郡部から始まった。ところが、全く予想だにしない出方となった。保守勢力の強い前尾先生の地盤でも蛭川が着実に票を伸ばし、柴田を寄せつけなかった。知事選挙の場合、府下の即日開票分で蛭川

を引き離し、翌日開票である大栗田の京都市で逆転されるといふのがいつものパターンであった。これでは、蛭川の勝利は確実である。各地からの開票速報が発表される度に、前尾先生の表情が変わり、喫っているタバコの灰が洋服に落ちるのも忘れ、まるで茫然自失の状態であった。前尾先生が京都府知事奪還の宿願を果たすのには、その後8年の年月を要することになった。

新春招福バスツアー

第23回 伊勢神宮初詣

- ◇旅行日 平成22年1月11日(月・祝)
- ◇昼食場所 鳥羽『戸田家』
- ◇会費 8,000円
- ◇申込締切日 平成21年12月15日(火)

◇申込先 後援会役員または二ノ湯さとし京都事務所まで
TEL(075)315-2228 FAX(075)315-2310
参議院議員 二ノ湯さとし後援会

第194回 みんなで歩こう湯歩会

- ・日時: 11月29日(日) 小雨決行
- ・集合時刻: 午前9時(時間厳守)
- ・集合場所: 地下鉄国際会館駅(4-1番出口)
- ・コース: 国際会館駅→長谷八幡宮→岩倉貯水槽→石座神社→実相院→国際会館駅解散
- ・今回は、深まりゆく秋の洛北・岩倉方面を歩きます。是非ご参加ください。

(当日) ☎090-1956-7460

歩くことは健康の基本

第193回 みんなで歩こう湯歩会 (参加者71名)



京都御所・建礼門前にて

ニノ湯しんじ 後援会旅行会のご案内

- ◆日時 平成22年2月27日(土)~28日(日)
- ◆参加費 お一人様①駒ヶ根観光コース 32,000円
お一人様②中央アルプスコース 34,000円
- ◆コース概要(予定)
27日: 京都→中山道・妻籠宿→駒ヶ根・早太郎温泉(泊)
28日: ①早太郎温泉→光善寺→かんてんばばガーデン
②早太郎温泉→中央アルプス千畳敷
①②コース合流→飯田→京都

ニノ湯さとし後援会の皆様も是非ご参加ください
参議院議員 ニノ湯さとし事務所 TEL(075)315-2228 FAX(075)315-2310

自民党政経パーティのお知らせ

自民党京都府連は一昨年まで、会費3万円の政経パーティを行っていましたが、野党となった現在、従来通りの形式では、市民の理解が得られないと判断、会費1万円の飲食を伴わない、講演とパネルディスカッション形式で政経文化パーティを開催することになりました。野党になった現在、1万円のパーティ券をさばくのは簡単なことではありませんが、党再生のために国会議員はじめ各級議員が頑張らなければならない。パーティの要領は次の通りである。

- ◆日時 平成22年2月6日(土) 13時30分から
- ◆場所 国立京都国際会館(京都市左京区宝ヶ池)
- ◆会費 一口 1万円

☆お申し込みはニノ湯さとし事務所まで

TEL075-315-2228 FAX075-315-2310

身辺雑記

一、谷垣新総裁による最初の選挙であった、神奈川・静岡両県の参議院補選は残念ながら負けてしまった。しかし予想されたほどの差が開かなかった。総選挙で民主党に勝たせ過ぎて、国民のバカンス感覚が働いたのかも知れない。

一、日本郵政株式会社の社長が西川氏から斉藤氏に交代した。「脱官僚」「官僚の天下り反対」と声高に叫んでいた民主党。15年前彼は官僚中の官僚と言われた大蔵事務次官である。舌の根の乾かぬうちに官僚の復活とは。

一、大正8年生まれの母親が今年10月で90歳になった。今なお週一回、カラオケで歌を楽しんでいるらしい。親子遠足、小学校の運動会等での若々しかった母親の姿が思い出される。

一、鳩山内閣の閣僚たちのバラバラ発言はどうなっているのか。自民党内閣の時だったら閣内不一致で国会がストップ。民主党内閣だったらそれが許される。政治も変わった、時代も変わったとの感を深くする。

一、漁船で4日間閉じ込められた3人が奇跡的に救助された。出入り口が冷蔵庫でふさがれ脱出出来なかった。それが又、幸いして命が助かった。生死はまさに紙一重。同時に人間の生命力の強さと最後まで諦めてはいけない事を教えられた。

「えとす」購読のお願い

月刊誌「えとす」は毎月一回の発行です。
毎月ご希望の方は、郵便口座振替にて、ぜひお申し込み下さい
年間購読料 1200円
郵便振替口座 01000-4-62360
口座名: みんなで政治を考える会

— お問い合わせ先 —
ニノ湯さとし事務所
電話 075-315-2228

ホームページを開設いたしました
http://www.ninoyusatoshi.com

「新政経懇話会」入会のお願い

「新政経懇話会」では、機関紙「えとす」の発行をはじめ、ニノ湯さとしの政治活動をご支援いただける会員を募集しております。是非、ニノ湯さとしの政治理念と主張にご賛同いただき、ご入会下さいますようお願い申し上げます。

新政経懇話会 年会費 1万円

入会申込・お問い合わせ先

ニノ湯さとし事務所 ☎075-315-2228

一、晩秋ともなると肌寒くなってくる。来夏の参議院の勝利を目指し、支持者を訪ね、自民党への支持を訴えている。選挙運動と思うと気が重くなるが、美しい景色を眺め、おいしい空気を吸い、各地で温かい人情に触れることが出来る。

一、俳優の森繁久弥さんが亡くなった。知性豊かな喜劇俳優で、森繁さん主役の社長シリーズの映画をよく見た。「知床旅情」は学生時代からの愛唱歌で今でも歌うことがある。思い出の人が亡くなる。寂しい限りだ。